

理学療法学科・作業療法学科1年

授業科目名	倫理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	倫理学
担当講師	日高 明
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	本講義では、倫理学の基礎を学ぶとともに、医療やケアの現場で起こる倫理的な問題を取り上げ、生命倫理の多様な現状を紹介します。受講者がこれらについて考え、話し合うことで、自身の生命観や人間観を捉え直し、ひいては医療人としていかに患者に向き合うかを自覚することを目指します。
授業の概要	<p>各回、下に挙げたテーマからいくつかをピックアップして、講義を行います。受講する学生の興味や進行状況に応じて、各回の内容を変更することもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間とは 様々な「人間」の定義、人間と動物とのギャップ、人間の社会性</li> <li>2. 規範倫理学 功利主義／義務論／徳倫理学／ケアの倫理</li> <li>3. 患者の権利と自己決定 生存権／患者の権利／意識喪失患者・法的に無能力な患者の権利</li> <li>4. 臨床のコミュニケーション コミュニケーションの意義・目的・技法／バイステックの7原則</li> <li>5. 生 代理出産／出生前診断／デザイナーベビー／優生思想</li> <li>6. 老・病 抑制／虐待／介護殺人／資源の配分／インフォームド・コンセント</li> <li>7. 死 脳死／終末期医療／安楽死・尊厳死</li> <li>8. 討論</li> <li>9. 試験</li> </ol>
テキスト 参考書	資料を配布します。
評価の方法	定期試験 試験は毎回の講義の内容から出題します。また、短い記述式の問題も出題します。
授業の形式 受講上の注意	座学 場合により、オンラインにて実施する。

理学療法・作業療法学科 1 年

授業科目名	教育学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	教育学
担当講師	西田美恵子
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が生きるという事と、教育の関わりを明らかにする。</li> <li>・教育の歴史を通し、教育について知見と広い視野を持つ。</li> <li>・社会に有為な資質の醸成と、アイデンティティの確立の必要性を把握する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1 教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文明のあけぼの～文明・文化というもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文明の発達と文字文化（書写材） 人類と文字の発達・教育</li> </ul> </li> <li>○古代、中世、近世における教育というもの（日本）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代国家 必要不可欠である文字の発達（漢文・万葉仮名）</li> <li>・中世 武家と五山文学 芸能ラッシュの背景となる教育とは</li> <li>・近世の時代が要請する学びと民衆 手習い</li> </ul> </li> <li>○明治維新以降 ～西洋文化に追いつく日本の教育制度とその奇跡</li> <li>○教育の発達と教育の原点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・民衆教育の父「ペスタロッチ」 「デューイ」 経験論</li> <li>・社会の要請と高まる専門性</li> </ul> </li> </ul> <p>2 教育論が問う人間形成の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自我の発達論～エリクソン「アイデンティティの確立」</li> <li>○ボウルビー「愛着理論」等</li> </ul> <p>3 現代の教育の課題</p>
テキスト 参考書	講義資料
評価の方法	ワークシート（毎授業提出）、テスト（最終日） 欠席した場合、ワークシートは当日のレジメを熟読のうえ記載し次回に提出
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学</li> <li>・課題について話合いの時間を持つ場合がある。それぞれの意見交換を通し、意見を聞き合い、互いに深め合っていきたい。</li> <li>・場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>

理学療法学科・作業療法学科1年

授業科目名	生物学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生物学
担当講師	山本 一夫
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	生物学領域の中の動物（人体）の構造とはたらきに特化した内容を習得することで、理学・作業療法学科の専門分野を理解する基礎とする。 科学的なものの見方・考え方に触れることで、医療従事者としてのスキル獲得の緒としたい。
授業の概要	第1回 細胞と器官 第2回 物質交代とエネルギー 第3回 動物の恒常性と調節1 血液の循環 第4回 動物の恒常性と調節2 血液の働きと免疫の仕組み 第5回 動物の恒常性と調節3 排出 ホルモン 第6回 神経系とその働き 第7回 遺伝の法則と進化 第8回 試験
テキスト 参考書	講義データ
評価の方法	期末試験の成績により評価する。
授業の形式 受講上の注意	一斉授業（講義形式） ※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	物理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理学
担当講師	山本 一夫
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	医療技術者としての専門分野を学ぶためのスキルとして、力学を中心とした物理学の基礎知識と科学的なものの見方や考察力を習得するとともに、医療従事者としてのスキル獲得の緒としたい。
授業の概要	<p>第 1 回 医療における物理学役割 物理学の単位 三平方の定理 三角関数</p> <p>第 2 回 静力学 1 力の表し方 (ベクトル) 力のつり合い</p> <p>第 3 回 静力学 2 モーメントとトルク 人体の力学</p> <p>第 4 回 力と運動</p> <p>第 5 回 仕事とエネルギー</p> <p>第 6 回 圧力と浮力</p> <p>第 7 回 熱と光と医療 地震のエネルギーと影響 放射線の正体と医療</p> <p>第 8 回 試験</p>
テキスト 参考書	講義データ
評価の方法	期末試験の成績を主にして、課題等の達成度を加味して評価する。
授業の形式 受講上の注意	一斉授業 (講義形式) ※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	社会福祉学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	社会福祉学						
担当講師	塚原 健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》社会福祉士						
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉的な視点で社会を見ていくことで各々が新たな視野をひらき理解がすすむことをめざす。</li> <li>・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な社会福祉制度について学ぶ。</li> </ul>						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉・社会保障の基本理念と発展過程</li> <li>2 児童虐待</li> <li>3 生存権と公的扶助</li> <li>4 年金制度</li> <li>5 医療保障と介護保険</li> <li>6 障害者福祉と高齢者保健福祉</li> <li>7 期末テスト対策</li> <li>8 期末テスト</li> </ol> <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。</p>						
テキスト 参考書	社会福祉 新川 泰弘・宮野 安治編著 青踏社						
評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">出席(授業態度も含まれます)</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> </table>	出席(授業態度も含まれます)	40%	レポート	30%	期末テスト	30%
出席(授業態度も含まれます)	40%						
レポート	30%						
期末テスト	30%						
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には講義形式ですが、グループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。</li> <li>・社会情勢や価値観の変化などについて社会福祉的な視点で考えることを期待します。</li> <li>・場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>						

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	公衆衛生学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	公衆衛生学	
担当講師	PT・OT 教員	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	公衆衛生は、保健・医療・福祉を包括する学問である。その領域は、これらの分野を学術的に連携する多岐な要素を持っている。理学・作業療法士にとって重要となる項目に焦点を当て、講義を行う。	
授業の概要	第 1 回	公衆衛生とは（担当：國近敏伸） 《到達目標》 ・疫学について理解し、説明することができる。
	第 2 回	地域保健と保健行政（担当：國近敏伸） 《到達目標》 ・保健所と市町村保健センターの業務と役割について答えることができる。
	第 3 回	精神保健について（担当：國近敏伸） 《到達目標》 ・わが国の精神保健行政の変化の特徴を答えることができる。
	第 4 回	生活習慣病について（担当：國近敏伸） 《到達目標》 ・脳卒中の危険因子とその予防について答えることができる。 ・悪性新生物で死亡率が増えている部位について、それぞれの増加の原因を述べる事が出来る。
	第 5 回	感染症について（担当：國近敏伸） 《到達目標》 ・流行予防の対策を感染症を例に挙げ、それぞれ答えることができる。
	第 6 回	難病について（担当：亀山一義） 《到達目標》 ①：指定難病を理解し、説明することができる。 ②：難病対策を理解し、説明することができる。 ③：難病に対して PT・OT ができることを考える。
	第 7・8 回	難病について（担当：亀山一義） 《到達目標》 ①：グループごと指定難病の概要等を調べる。 ②：指定難病に関する発表ポスターを作成する。
テキスト 参考書	なし	
評価の方法	グループワークで作成したポスターの内容（概要・治療法）・デザイン（配色・配置）を総合的に判定する。	
授業の形式 受講上の注意	座学形式    グループワーク 状況によりオンライン講義	

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	体育
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	体育
担当講師	藤村忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》保健体育教員免許
授業の目的	医療や介護の現場では身体を使って仕事をする機会が多い。またチームアプローチという集団の中で行動するために、秩序正しく能率的な動きが求められる。講義を通して、体力の向上と秩序ある行動様式の習得、さらに精神面の向上（学習意欲の向上など）を図る。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団行動とは                      集団行動の必要性の理解                      大きな声を出すことに慣れさせる。                      基本的な行動様式の習得                      約束や決まりを守らせることの重要性                      敏速且つ的確な行動の習得                      リーダーの指示による行動の習得</li> <li>・ 基本的行動の習得                      姿勢                      方向転換                      集合・整列・番号・解散                      列の増減                      開列                      行進                      足踏み                      礼</li> <li>・ 各学科での集団行動演技の構成決め・練習</li> <li>・ 集団行動発表会の実施</li> </ul>
テキスト 参考書	特になし。
評価の方法	最終講義にて実施する発表の内容によって評価する。
授業の形式 受講上の注意	講義は講堂にて行う（実技形式）。

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	日常英語
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常英語	
担当講師	Fidel G.Montoya	
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
授業の目的	Beginner's Survival English	
授業の概要	1.Introductions Group Assignments Text:Passport Unit1	Introducing yourself Where, Who, What Picture Speculation
	2.Text:Passport Unit2,3	Simple questions Numbers and money
	3.Text:Passport Unit4	Simple questions Hotel Reservations role play
	4.Text:Passport Unit4,5	Could I, Can I, Do you mind...? Giving Directions
	5.Text:Passport Unit6,7	Making plans, asking permission Seeing the Doctor
	6.Text:Passport Unit8,9	Asking questions,Discussions,Reporting Making appointments Restaurant role play
	7.Text:Passport (Review)	Class discussion, likes dislikes Review all units
	8.Test	Unit 1-9
テキスト 参考書	Passport Student's Book	
評価の方法	Test	
授業の形式 受講上の注意	・場合により、オンラインにて実施する。	

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	解剖学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学 I
担当講師	森澤 文博
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 療法士の基礎3本柱の1つである解剖学の中でも「骨・筋」を中心に、身体の構造を立体的に把握・イメージ化していく</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 骨の名称、部位の名称を記載できるようになる</li> <li>➤ 骨模型を並べられるようになる</li> <li>➤ 筋の起始停止を覚え、自他の身体でトレースできるようになる</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 総論 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 身体の区分、全身の骨の名称</li> </ul> </li> <li>② 上肢の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨</li> </ul> </li> <li>③ 下肢の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 寛骨、大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨</li> </ul> </li> <li>④ 頭頸部・体幹の骨 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 頭蓋骨、椎骨、胸骨、肋骨</li> </ul> </li> <li>⑤ 全身の骨配置 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 机上に骨標本を正確に配置する</li> </ul> </li> <li>⑥ 上肢の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> <li>⑦ 下肢の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> <li>⑧ 体幹の筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 名称、起始、停止</li> </ul> </li> </ul>
テキスト 参考書	PT・OT ビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学:羊土社 プロメテウス解剖学アトラス:医学書院
評価の方法	筆記試験:90%(骨10%×3回 筋20%×3回) 実技試験:5%(骨配置) 口頭試問:5%(筋の走行をトレースする)
授業の形式 受講上の注意	座学・実技形式 ※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	解剖学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学Ⅱ
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p><u>方向目標</u>                      理学療法士・作業療法士の基礎の3本柱の1つであるのが解剖学である。この解剖学Ⅱでは循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系といった主に臓器についての構造を学んでいき、高齢者の大半が罹患している内部障害系疾患に対応する基礎を身につける。</p> <p><u>到達目標</u>                      臓器の構造、役割について理解する。</p>
授業の概要	<p>1.循環器系                      肺循環と体循環、血管の構造、心臓、全身の動脈・静脈</p> <p>2.呼吸器系                      咽頭・喉頭、気管と気管支、肺、縦隔</p> <p>3.消化器系                      口腔、唾液腺、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、嚥下</p> <p>4.内分泌系                      内分泌と外分泌、内分泌腺の種類、ホルモンの特徴</p> <p>5.泌尿器系                      腎臓、尿管、膀胱、尿道</p> <p>6.感覚器系                      外皮、視覚器、平衡聴覚器</p>
テキスト 参考書	PT・OT ビジュアルテキスト解剖学第1版 羊土社
評価の方法	定期試験（筆記）100%
授業の形式 受講上の注意	座学 ＊場合により WEB 授業となる

理学療法学科 1年

授業科目名	機能解剖学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	機能解剖学
担当講師	橋本宜昭
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法評価、治療に必要な触診を学習する。</li> </ul> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の部位名、筋の起始停止などについて説明できる。</li> <li>・筋の走行から関節運動を説明できる。</li> <li>・筋の走行から姿勢、触診部位、指の当て方、運動の誘導などを考えられる。</li> <li>・触診の強さに配慮できる。</li> </ul>
授業の概要	<p>オリエンテーション</p> <p>上肢・下肢・体幹の骨の触診</p> <p>上肢・下肢・体幹の筋の復習</p> <p>上肢・下肢・体幹の筋の触診</p> <p>下肢を中心とした靭帯の触診</p>
テキスト 参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢、下肢・体幹)：メディカル ビュー
評価の方法	<p>小テスト</p> <p>筋の起始・停止の確認（面接にて）</p> <p>実技試験</p>
授業の形式 受講上の注意	<p>実技形式</p> <p>注意：服装は実習着とする</p>

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	生理学演習
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	生理学演習
担当講師	森澤 文博
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p>方向目標</p> <p>➤ ヒトは生体内外の種々の変化に適応し全体として調和のとれた生命現象を営んでいる。この調和が崩れたものが疾病であり、今後疾病を理解するうえで重要なヒトの正常機能を暗記ではなく、理解する</p> <p>到達目標:</p> <p>➤ 下記分野の国家試験問題が解けること</p>
授業の概要	<p>physiology(生理学)とは</p> <p>第1章 生命現象と人体</p> <p>第2章 細胞の構造と機能</p> <p>第3章 神経の興奮伝導と末梢神経</p> <p>第4章 中枢神経系</p> <p>    A) 中枢神経系とは</p> <p>    B) 脊髄</p> <p>◇ 終了後中間試験</p> <p>第5章 筋と骨</p> <p>第6章 感覚</p> <p>第7章 血液</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学:医学書院 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート:医歯薬出版株式会社
評価の方法	中間テスト:40% 期末テスト:60%
授業の形式 受講上の注意	座学形式 ※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。

授業科目名	運動学 I・II
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学 I・II	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	身体運動の仕組みを理解し、正常運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけることができる。それらを身につけるために①力学原理に基づく運動の記述と解釈、②筋骨格系の構造・機能と関節の運動との関係、③日常生活における基本動作について学習する。	
授業の概要	第 1-2 回	生体力学の基礎 《到達目標》 ①：生体力学における運動学と運動力学を理解する。 ②：身体運動における運動学および運動力学的分析を理解する。
	第 3-7 回	生体の構造と機能 《到達目標》 ①：骨および関節の構造を理解する。 ②：関節運動を理解する。 ③：骨格筋の構造と収縮様式を理解する。
	第 8 回	テスト① テスト範囲：第 1-7 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 9-14 回	上肢帯および手指の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 15 回	テスト② テスト範囲：第 9-14 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 16-22 回	下肢帯の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 23 回	テスト③ テスト範囲：第 8-14 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 24-29 回	体幹の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第 30 回	テスト④ テスト範囲：第 23-29 回までの講義内容

		テスト形式：記述
テキスト 参考書	中村隆一他著：基礎運動学	
評価の方法	テスト①・②・③・④の平均点が 60 点以上を合格とする。 *運動学Ⅰはテスト①・②，運動学Ⅱはテスト③・④を評点とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学（場合により web での講義もあり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

理学・作業療法学科1年

授業科目名	リハビリテーション概論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション概論
担当講師	小林 憲人
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションとは何か。</li> <li>・理学療法と作業療法を中心に学ぶ。</li> <li>・現在の病院の制度（医療介護保険について）理解を深める。</li> <li>・保健制度や政策を理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.リハビリテーションの概論・歴史</li> <li>2.リハビリテーションのかかわり方（医療・介護保険制度）</li> <li>3.介護保険について（食事介助・患者様との距離を学ぶ）</li> <li>4.急性期・回復期・生活期のリハビリテーションについて</li> <li>5.がんのリハビリテーション</li> <li>6.チーム医療・2040年問題</li> <li>7～15. グループワーク・発表会</li> </ol> <p>（課外講義の予定；日程は後日連絡します）</p>
テキスト 参考書	リハビリテーション総論：椿原 彰夫 編
評価の方法	グループワークやレポート、発表からの総合的判断
授業の形式 受講上の注意	<p>座学</p> <p>※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。</p>

理学療法学科 1年

授業科目名	理学療法概論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法概論
担当講師	藤村 忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	理学療法の概略を学びながら、理学療法士としての社会的責務、またその必要性・大切さについて学習し、理学療法士としての魅力・誇りを感じ取る。また医療人として必要な倫理面やリスクマネジメント・関連法規等について見識を積む。
授業の概要	<p><u>授業の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の概念と歴史</li> <li>・理学療法士の法的な位置づけ</li> <li>・理学療法の対象範囲とその方法</li> <li>・医療人としての倫理について</li> <li>・理学療法士としての心構え</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・医療保険/介護保険/障害者自立支援法などの法律関連</li> </ul> <p><u>授業の進め方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストに従い、理学療法及び理学療法士というものについて周辺知識も含めて習得することを主眼とする。参考プリントも適宜配布する。</li> </ul>
テキスト 参考書	理学療法テキスト I 理学療法概論 第4版 神陵文庫
評価の方法	筆記試験の点数を基準として評価する。
授業の形式 受講上の注意	<p>講義は座学にて実施。</p> <p>※新型コロナウイルス等感染症の流行の際は WEB にて講義を実施。</p>

理学療法学科 1年

授業科目名	理学療法管理学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法管理学
担当講師	藤村 忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	理学療法士を目指す者として、学術や職能の発展という認識を早期に意識しながら、医療人としての倫理観や職場や業務のマネジメントを理解することによって、患者へのマネジメントや生涯学習への取り組みを促すことを目的とする。
授業の概要	<p>①管理・マネジメントの概観                  ②理学療法管理学とは                  ③理学療法士の職業倫理                  ④組織運営とマネジメント                  ⑤職場管理                  ⑥業務のマネジメント                  ⑦教育・研究のマネジメント                  ⑧保健・医療・福祉分野を取り巻く諸制度とマネジメント                  ⑨疾患別・病気別の理学療法マネジメント                  ⑩生活気を支援するマネジメント</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の組織について理解し、説明できる。</li> <li>・職場管理（診療記録と書類管理）について理解し、説明できる。</li> <li>・人間関係について理解し、他の関連専門職と業務調整、連携ができる</li> <li>・職場倫理（労務管理、人事管理、ハラスメントなど）について理解し、説明できる。</li> </ul>
テキスト 参考書	理学療法管理学：奈良 勲 著 医歯薬出版
評価の方法	期末試験の点数にて評定する。
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク ※新型コロナウイルス等感染症の流行の際は WEB にて講義を実施。

理学療法学科 1年

授業科目名	理学療法評価法概論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	理学療法評価法概論
担当講師	藤村 忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》理学療法士
授業の目的	理学療法プロセスにおける評価の位置づけや各検査法の意義・目的を理解する。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価とは</li> <li>2. 情報収集</li> <li>3. 医療面接</li> <li>4. バイタルサイン測定</li> <li>5. 形態測定</li> <li>6. 関節可動域測定</li> <li>7. 筋力測定</li> <li>8. 感覚検査</li> <li>9. 反射・筋緊張検査</li> <li>10. 運動耐容能検査</li> <li>11. 協調運動機能検査</li> <li>12. バランス検査</li> <li>13. 基本動作の評価</li> <li>14. ADL・QOL の評価</li> </ol> <p><u>進め方</u></p> <p>テキストに従い、理学療法における評価についての知識を習得することを主眼とする。実際にデモンストレーションしながら、検査などの実施方法をイメージ出来るようにする。参考プリントも適宜配布する。</p>
テキスト参考書	理学療法基礎評価学      医歯薬出版
評価の方法	筆記試験の点数を基準として評価する。
授業の形式 受講上の注意	<p>講義は座学にて実施。</p> <p>※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。</p>

理学療法学科 1年

授業科目名	検査・測定論 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	検査・測定論 I
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p><b>方向目標</b>                      角度計を用い、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」に沿って測定し、記録できる。</p> <p><b>到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節可動域測定の定義と目的を理解する。</li> <li>・ 関節の運動方向を理解する。</li> <li>・ 関節可動域測定の基本軸・移動軸を理解する。</li> <li>・ 実際に関節可動域測定ができる。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節可動域測定の定義と目的について</li> <li>・ 測定方法、測定上の留意事項について</li> <li>・ 上肢の関節可動域測定（実技）</li> <li>・ 下肢の関節可動域測定（実技）</li> <li>・ 体幹の関節可動域測定（実技）</li> </ul>
テキスト 参考書	理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆記試験（基本軸・移動軸・参考可動域）</li> <li>・ 実技試験（OSCE形式）</li> </ul>
授業の形式 受講上の注意	<p>実技</p> <p>*実技の服装は<b>実習着</b>着用とする。</p>

理学療法学科 1 年

授業科目名	日常生活活動 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動 I
担当講師	小林 憲人
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>本講義では ADL について知り、ADL がどんな内容であるかを説明できるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの目標を説明できる。</li> <li>・ADL, APDL, IADL, QOL が解釈できる。</li> <li>・基本動作の意味を理解し患者に応用できるようになる。(実技)</li> <li>・福祉機器を理解して患者に説明・指導できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p><u>授業の概略構成</u></p> <p>①ADL の概念及び QOL の概念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ADL と QOL について理解し説明できる。</li> </ul> <p>②日常生活の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PT の視点を理解して ADL 評価の意義を理解する。</li> <li>・実際に ADL 評価について説明する。(グループワーク)</li> </ul> <p>③基本動作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作について説明でき、介助できる。</li> <li>・寝返り・起き上がり・立ち上がり動作を自身の体を通して体験し身につける</li> </ul> <p>④複合動作指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活を送るために、複合動作を知り指導できる。</li> <li>・セルフ・ケアのポイントを理解できる</li> </ul> <p>⑤リハビリテーション支援機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉機器・用具への理解・適応を知る。</li> <li>・杖・松葉杖・車椅子・歩行器への理解、患者への指導できる。(実技)</li> </ul> <p><u>授業の進め方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・I では全体に関わる基本的部分を中心に学び理解する。</li> <li>・II では疾患をベースに ADL の具体的対応や方法について実施する。</li> <li>・参考テキストをベースとしたプリントを配布して授業を進める。</li> <li>・日常生活動作に必要な起居動作・車いす・杖・リハビリ機器を実際に体験する。</li> </ul>
テキスト 参考書	理学療法テキストV 日常生活活動(ADL) 第2版 神陵文庫
評価の方法	定期試験・小テスト・実技試験を総合的に判断する。
授業の形式 受講上の注意	<p>講義及び実技・試験(最終日)</p> <p>実技は治療室で行います。</p> <p>※新型コロナウイルス等の流行の際は Web にて講義を実施。</p>